

長野県、佐久市における アフガニスタン母子保健実施管理コースの実施 Knowledge Co-Creation Program (Young Leaders) for Afghanistan/Maternal and Child Health Management Course

【背景】

アフガニスタンでは、2001年のタリバン政権崩壊以降も、復興は計画通りに進まず、今なお治安は不安定です。アフガニスタンの公衆衛生省は、妊産婦死亡率の低下を目標として、2004年1月、リプロダクティブヘルス局を設置しました。同局は「質の高い家族計画サービスへのアクセス向上」、「産科救急ケアへのアクセス向上」、「訓練された介助者による出産介助を増やす」ため3つの政策目標を掲げました。具体的には、リプロダクティブヘルス分野の保健医療サービス提供者（看護師・助産師）の技術水準の向上も求められています。このような状況の下、佐久大学は、独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け、母子保健サービスの改善を目的とする、青年研修・アフガニスタン母子保健実施管理コースを佐久市と連携して実施しました。

地図



【研修目標】

研修員は、研修終了時まで下記目標を達成する。

- 1) 日本、長野県および佐久地域の戦後の地域活動、母子保健活動から類似性を見出し、アフガニスタンに応用できるヒントを見出す。
- 2) 自国、および所属先の課題を分析し、本邦研修の成果を生かして、帰国後実施可能な活動をアクションプランとしてまとめることができる。

Afghanistan Map and Neighboring Countries 34州のうち10州から18人の保健医療職が参加



【研修方法】

18日間の研修期間中(2017年7月)、長野県、佐久市の保健医療機関等に於いて、講義(看護・助産教育、母子保健政策、小児の健康と母親への指導、笑いが持つ健康への効果)、見学(乳幼児健診事業各種、助産所のパパママ教室)、演習(新生児の心肺蘇生、開業助産師による乳房ケア、妊産婦への骨盤健康指導)、ワークショップ(産科医師、助産師のグループ別事例検討、所属組織の問題分析)を組み合わせたプログラムを実施しました。研修評価は4段階リッカー方式で目標達成率を記入、また最も役に立つと思われる科目等について記述してもらい集計を行いました。

研修の風景：



パパママ教室：於とうみ助産所
助産師のロールプレイを熱心に見学



妊婦体験：子育て真っ最中のアフガニスタンの母親は、こんな感じです。

【結果】

評価アンケートの結果、18人の研修員の目標達成率平均は、95.83%でした。帰国後に実施するアクションプランとして、母乳育児の促進、適切な間隔をあけるための家族計画、(母子の)栄養失調改善計画、妊産婦の健康改善計画、が発表されました。



新生児の心肺蘇生、演習：於佐久大学



佐久大学基礎看護の講義を見学中



日曜日、松本城の見学日は雨、母国では雨が少ないので研修員は、雨が大好きと言う。



18日間の本邦研修を終え、閉校式

【考察】

研修員（産科医師、助産師、看護師）は、アフガニスタンの11州の13病院から参加していました。都市と地方、紛争地域と平穏な地方では地域間格差が大きく、都市の病院では、現行教育研修が実施されていますが、地方ではそうではありません。女性の識字率の全国平均は、30%で都市部で高く、農村部で低い。共通課題である低出生体重児の原因には、栄養についての教育が不十分であり、女性も家族も知識がないことが挙げられました。経済的困難により栄養を考えた食料を入手できない家族も多い。公衆衛生、インフラが脆弱な社会において、母子の健康を支える保健医療職者が健康づくり地域活動にどのように関わっていくのか、大きな役割を感じさせられました。

本研修の様子は、7/19日信濃毎日新聞、同日のSBCニュース、および7/28日付、佐久市民新聞に掲載されました。